

社協だより

さりげなく、ともに生きる!! 「おもいやりの町、しもすわ」をめざして。

No.175 発行人・石川富造

編集・社会福祉法人下諏訪町社会福祉協議会

「確かな福祉をもとめて」



新年あけまして

おめでとうございませす

社会福祉法人

下諏訪町社会福祉協議会

会長 石川 富造

昨年3月に、予期もせぬ東日本大震災、長野県北部地震が起こり、栄村や東北地方の広い地域において甚大な被害を受けました。

下諏訪町社会福祉協議会では、被災地支援の為、震災後直ちに義援金と義援物資の受け付け窓口を設置したところ、住民の皆様より暖かいご支援が続々と寄せられました。震災直後の寒さを心配して、義援金や義援物資を早く届けてほしい、一日も早く立ち直ってほしいという皆様の願いや暖かい支え合いの気持ちがたくさん込められていました。

復旧、復興、生活支援の為、社協職員を栄村や岩手県大槌町へ派遣し、そしてまた、住民の皆様との災害ボランティアバスパックの実施なども行っておりました。今後も引き続きできる支援をしていくことが必要と思います。

地震、台風、豪雨等の自然災害はどこでも起こりうる可能性があります。今回の大災害を大きな教訓にして、災害に強い町づくりに向けてソフト面、ハード面ともに、常に対策を考えていかなければなりません。

今、少子高齢化社会が現実になってきています。福祉的にみますと、子どもから年配の方まで、各年代各人それぞれの生活があり、様々な問題、課題があります。住みなれた所で自立した生活が望まれておりますが、現在は、無理なく安心して生活できるように福祉制度が充実してきていますので、自分にとつてどのような制度を利用すればよいのか、日頃から関心を持つことが必要だと思います。

また、下諏訪町社会福祉協議会では、町の委託を受けて、国が定めた「地域包括支援センター」の運営を

しています。悩み、疑問、相談ごと（介護や健康のこと、財産管理など権利を守ること、様々な相談ごと、暮らしやすい地域のこと）など、お気軽にご利用頂きたいと思ひます。

世の中がグローバル化して、ややもすれば、人と人とのつながりが希薄になってきています。戦後の近隣社会には、貧しくても物がなくても、暮らしには地域の連帯に暖かさや美学がありました。その土地、その土地で失ってはいけないものがあります。下諏訪町の良い所は皆で守っていくことが大切です。

今年が町民の皆様にとって良い年でありませすよう、ご祈念申し上げます。



高齢者擬似体験学習 in 下諏訪社中学校



高齢者擬似体験は、目がかすんで見える（白内障体験）ゴーグル、耳栓、指が動きづらい手袋、腕やひざが曲がりにくいサポーター、おもり等を装着して、高齢者になった状態を、擬似的に体験します。

今回は、体験器具を装備して、トイレに座る、階段の登り降り、お風呂に入る、新聞をめくる、箸を使うなど、日常生活の動作を体験しました。



〈体験してみても思ったこと〉

- ぼやけて、新聞の小さい文字が見えなかった。
- 赤と緑が見えやすく、黄色が見えづらかった。
- 近くで大きな声じゃなきゃ聞こえない。
- 箸が使いづらく、食事をするのも大変。
- 本、新聞をめくるのが大変。
- 身体が堅い感じがして、自由に動けなかった。

〈高齢者皆さん！私たちががんばりたい〉

- 自分達と同じようにできるんだと思わず、心配りをしていきたい。
- 見かけたら、荷物をもってあげるようにしたい。
- 耳が聞こえづらい人には、表情をつけて話す。
- 階段など、危ない所は、手助けする。
- お年寄りの気持ちを考えて行動する。



みなさんの学校・団体・会社などでも、福祉体験学習してみませんか？

下諏訪町社会福祉協議会では、社会福祉教育の推進を目的に、下記の福祉用具の貸出しを無料で行っています。

- 高齢者擬似体験セット
- 車椅子
- 点字板
- アイマスク
- 耳栓
- レクリエーション用具 他

また、ご相談に応じて、高齢者擬似体験、車椅子体験などの出前講座も受け付けています。

〈お問い合わせ〉
社協生活応援センター TEL 27-8886



アイマスク、耳栓



高齢者擬似体験セット



点字板



車椅子